

豊橋文学めぐり「ふるさとの民話をたずねて」

6月23日（水）に、豊橋文学めぐり「ふるさとの民話をたずねて」を開催しました。

今年度も講師の中島三郎さんには民話の背景にある歴史や文化の解説を、豊橋の民話を語りつぐ会の皆さんには民話の語りをしていただきました。

今回の民話は、吉田方の『御神木の椿』、嵩山の『アナドばあさん』、飯村の『金次の椎の木』をお話いただきました。

中島先生の分かりやすい解説と語り手によって民話の世界に引き込まれた参加者の方々は一言も聞き逃すまいと熱心に民話に耳を傾けていました。



飯村 「金次の椎の木」

参加された皆さんは口々に、「次回も参加したい」、「新しい発見が沢山あった」、「自分も語りをやってみたい」と声をかけていただきました。

半日と短い時間ではありましたが、民話の世界を、ご堪能いただけたことと思います



語りに耳を傾ける参加者の方々

そんな中で当日は、朝から雨が降っていました。

しかし、嵩山に着き、蛇穴のふもとまで歩こうとバスを降りると、さっきまでの雨が嘘のように止み始め、快晴となりました。

民話を聞こうと熱心な参加された皆さんの想いが善光寺さまに通じたのかもしれませんが。

（参照：片身のスズキ P.34,35 「アナドばあさん」）



蛇穴への遊歩道

講師、語り手始め、多くの方々のご協力により、参加された皆さんにご満足いただけた1日となりました。ありがとうございました。

図書館を利用される方が徐々に増えています。ますます愛される図書館を目指し、図書館を身近に感じていただくために、こうした行事を通じて、多くの方々が文学に関心をもっていただければと考えています。次回は、11月に「文学」を題材に行います。「民話」と同様に魅力的な行事になるよう計画を進めています。

広報とよはしでご案内しますので、ぜひご参加下さい。多くの方々のご参加をお待ちしております。